

# 判別精液、通常精液、肉牛精液の対象牛



えらばれるのはわたし



いいえ、わたしよ



肉牛の精液を牧場の繁殖戦略に取り入れるという発想は、何年も前からありました。乳用牛のジェネティクスが進歩し、戦略が進化し続ける中、牛群のプログラムに判別精液、通常精液、肉牛精液が含まれることは珍しいことではありません。どの牛にどの精液を使用するのか、酪農家はどのように判断しているのでしょうか？

ABS の Trent Olson 氏は、牧場に最適なアプローチを決定する最初のステップは、必要な未経産牛の頭数を定めることだと説明しています。毎年、牛群の何パーセントを淘汰し入れ替えるかを知ることは、牧場の目標達成に必要な未経産牛の頭数を定めるための第一歩となります。それを把握した上で、戦略を決めます。

ペンシルベニア州立大学の Chad Dechow 氏は、計画を立てる際に、すべての牧場が使うべき推奨戦略はないと言います。ゲノム検査や血統／遺伝的データの解析など、生産者がどれだけの投資をしたいかによります。

「ゲノム検査を行うのも、1つの方法です」と Dechow 氏は言います。「牛群の下位には肉牛の精液、上位には判別精液、そして牛群の目標などに応じて、中

間の何パーセントかに通常精液を使用します」

一方で、酪農家は全く何もしないことを選べます。

Dechow 氏：「例えば、ペンシルベニア州のある牧場では、毎月 30 頭の未経産牛が必要で、最初に生まれた 30 頭の未経産牛だけを飼養し、それ以降に生まれた未経産牛はすべて淘汰しました」

Dechow 氏は、その中間として、親牛の平均値、血統、母牛の年齢などの指標を使用して、後継牛にする未経産牛を決めるようアドバイスしています。

「もし牛群の遺伝的改良が進んでいけば、2 歳牛は成熟している牛よりも平均して優れていることになるので、若い牛から生まれた未経産牛をキープすればいいのです。そして、より高齢で、生産性の高い牛から生まれた未経産牛は、肉牛の精液を交配させるのです」、と Dechow 氏は説明します。

Olson 氏によると、多くの牧場では、余剰な未経産牛を減らし、価値の高い淘汰子牛を生産し、全体的な利益を上げるために、判別精液と肉牛精液を使用した戦略への移行にフォーカスしているそうです。

「牧場での通常精液の本数を無くす、あるいは減らすということは、子牛 1 頭の価値を高めるということです。なぜなら、その子牛は後継牛として牛群にとどまるか、最も淘汰価値のある子牛が産まれるように努力しているからです。肉用子牛の割合を多くして、乳用子牛の割合を少なくすれば、子牛販売による牧場の現金収入を上げることができます」